<1 「『遊び　学び　育つひろしまっ子！』育みシート」の活用の前に>

（1） 人は遊び、学びながら育っていく

子供の姿を見取り、子供理解を深めるためには、各年齢の発達の特徴を踏まえ、それに即した関わりができているかどうかという視点をもつことが重要です。
このページでは、0歳児から5歳児までの、「発達の特徴」と「保育者の関わりのポイント」を記載し、乳幼児期の育ちをどのように支えていけばよいのかを見通せるようにしました。
「育みシート」上部にも、「発達の特徴」と「関わりのポイント」を記載していますので、子供の育ちの見取りや保育の振り返りの際に参考にしてください。

発達の特徴

0歳児～

運動機能が著しく発達し、身体的、心情的欲求を満たしてくれた人に対して親しみと信頼感を抱く。

保育者の関わりのポイント

特定の大人との温かなやり取りや愛情豊かなスキンシップが、心の安定につながります。
子供が喜びや楽しさ、安定感や安心感をもてるよう、応答的なやりとりや言葉がけを大切にしましょう。

1歳児～

基本的な運動機能や指先の機能が発達し、自分でできることが増えてくる。
自ら体を動かし探索活動が盛んになる。

特定の大人が自分の気持ちに共感し、応えてくれることで、安心して表現し、行動します。
子供が安心して探索活動をしたり、伸び伸びと体を動かして遊んだりできるように見守り、安全面を考慮しながら、必要な援助をしましょう。

2歳児～

自我が芽生え、自己主張することが多くなる。
子供同士の関わりが徐々に増えていく。

自分の思いや欲求を主張し、受け止めてもらうことで、他者を受け入れることができるようになります。
言葉にできないもどかしさ、不安、気持ちの揺れ動きなどを丁寧に汲み取り、「自分でやりたい」という思いや願いを尊重して、子供の思いや行動などを受容することが大切です。

3歳児～

自分を発揮したくてチャレンジ精神が旺盛になる。
「自分でやってみたい」と意欲はあるが、できない時は援助を求めるなど、「依存」と「自立」が行きつ戻りつする。

「やったらできた」という充実感や満足感を味わうことが自立の第一歩です。
大人の手が掛からなくなることを子供に求めるのではなく、挑戦しようとしていることを見守り、それぞれの子供の発達に即した受容や励ましなどを行いながら、子供の「やってみたい」という思いを支えていきましょう。

4歳児～

相手に対する興味や親しみが増してきて、自分中心の主張をしながらも、周りの人に関わっていく。
人との関わりの中で多様な感情を味わいながら、相手の気持ちにも気付けるようになる。

嬉しさや楽しさだけでなく、悔しさや悲しさなど、友達と同じ体験をすることで、同じ気持ちや異なる感情を味わうことができるようになります。
一人一人の子供の感情や思いを十分に受け止め、自己主張のぶつかり合いや葛藤なども大切にし、他者との思いの違いや多様性に気付けるよう、また、人との関わりをもてるよう、援助していきましょう。

5歳児～

互いの良さや特性に気付き、友達関係を形成しながら人間関係が広がり深まっていく。
友達と共通の目的をもって、工夫したり協力したりする。

他の子供と関わりをもち、一緒に遊ぶ中で、工夫し協力する楽しさを味わえるようになります。
子供同士が目的を共有し、一人では味わえないものに夢中になったり、仲間と力を合わせて工夫し、問題を解決したりするような過程を大切にしましょう。

小学校以降へ